

町田市議会議員・若者育成の街

吉田つとむ

支持政党なし・市議会「保守の会」で活動

町田市議会
〒194-8520 東京都
町田市森野 2-2-22
☎042-724-2171
「保守の会」派室
自宅 042-795-7361
FAX 042-795-2726
yoshidaben@gmail.com



インターンシップ好評

更に6万円支給は、不公平税制

消費税ゼロ%の政策転換が急務

栃木県を除く10都府県で「緊急事態宣言」の延長が決定しました。2月に入っても、企業などにはオンライン業務の強化を迫り、飲食店に午後8時で営業を終えるように徹底する状態が続けられています。

もっともその対策として、飲食店舗ごとに1日に6万円の給付金があります。通常の売り上げを上回る飲食店も少なからずあり、「緊急事態宣言」を開始して直ぐに問題になったのですが、大きな改善されないままに継続になりました。政府施策の怠慢であり、事業規模を無視した税の投入量が不公正であり過ぎると批判が起きていますが、それは極めて正当な納税者の意見でしょう。その批判は、今回の給付金が飲食業に限定されたことで、映画館や劇場等は営業時間短縮で大幅な収入減になる分野からも拡大しています。

このように、今回の一部業界への給付金を支給するやり方は、大多数の事業者に商売のやる気を萎えさせる施策でした。私は、こうした不公平税制を即刻止め、商売に打ち込みたい人に向かい合う政策＝消費税のゼロ%転換を早々に実施し、数年間は継続するべきだと、再度、訴えます。



政治家・政党の責任の取り方

新型コロナ感染が深刻になり出した時期に、5人以上の会食を避けることが求められました。菅総理や二階幹事長らが5人以上で、夜の銀座のステーキ店で遅くまで集まっていた事実が明らかになりましたが、その時は役職を辞退した人、あるいは議員辞職をした人は一人もいませんでした。

ところが、1月8日以降に、11都府県に「緊急事態宣言」を出されて以降、有力政治家が「夜遅くまで銀座のクラブを梯子していた」という事態に対して、状況判断が大きく変わりました。午後8時が一つの選択基準になっていますが、それ以上に、「緊急事態宣言」が国民生活、取り分け多数の国民の就業状況に多大な悪化を与えていることが背景にあると思っています。

自民党は、その後、当事者がこの詳細を隠していたということも判明し、二階幹事長がそれらの議員に離党勧告を行い、離党しました。公明党の場合は、政権与党にあるためか、当初反省の態度のみで進んでいましたが、究極は、当事者が議員辞職、次の選挙には出ないという表明をさせられる事態になりました。

国民生活との関係で、公明党や共産党は政治家責任を厳しくする体質が元来求められていることは明らかです。他方で、組織支持基盤がない地方の無所属議員の場合は、身近な住民の批判を受け、早々に進退を明らかにする（辞職する）以外に、先の展望は一切なくなることでしよう。つまり、政治家の責任の取り方と言っても様々ですが、自民党の場合は、横暴を極めると、野党陥落と言う大リスクが待ち構えていることを知ることが唯一の選択枝でしょう。

◎消費税をゼロ%に転換することが国家の急務課題。国が動かないなら地方から声を起こしていこう！コロナの第4波を避けるため、医療対策優先し、オリンピックを中止しよう！

町田市議会第1回定例会は2月19日よりスタートします。先行して、議員は質問準備です。

町田市議会議員 **3期連続トップ当選**

吉田つとむ

若い世代の育成に全力をささげる



ブログ

HP



メールは
左記を読込
して送信



インターン生募集中

インターン体験⑪-1 松村エミリ

株式会社ユーグレナ本社を訪問し、出雲充社長と面談

今回は、株式会社ユーグレナさまの本社に訪問させていただき、代表取締役の出雲 充様とお話しさせていただく機会を設けて頂きました。私は、小学校5年生の時に出品した石油作文コンクールをきっかけにバイオ燃料（ユーグレナ）を認知していたことを御報告させていただきました。当時から興味を持っていたバイオ燃料が現在、ボーイング787機で実用化の計画が進んでおり、実現に近づいているそうです。

筑波にある国立環境研究所でのCO₂の研究の一環に、バイオ燃料が現在のジェット燃料と同じ距離を飛ばした場合、どれくらい排出量が減るのかといった旨の研究を行っているそうです。出雲社長は、日本が2050年に掲げている「CO₂排出実質0」に向けても、連携しなくてはならないと語っていただきました。



また、ユーグレナがキューサイを連結子会社にし、キューサイのブランド再構築を手掛けており、高齢者でも注文しやすい通販のシステム

作りを行い、多くの人の手に届きやすいための工夫に尽力されていることを教えて頂きました。

そして、会社の取り組みの一つに、保育園が会社に完備してある点がユーグレナの発展につながっているのだと紹介を受け、強く感じました。平均年齢が若く、女性社員が多い傾向にあるユーグレナにとって、会社内の保育園の存在は社員にとって、働きやすく、理想的な職場環境が整っているのだろうと感じました。現在は、5～6人子供が預けられており、出産後3か月で復帰される方もいるそうです。出雲社長もやってよかったと仰っていました。

同じく勤務体制の話題に、COVID-19による影響や変化があったかを質問させていただいたところ、年に2日、避難訓練と同じように、全員在宅の日を設けていたため、緊急事態宣言下、100%在宅でも支障がなく進めることが出来たというお話をして頂きました。出雲社長は振り返り、訓練の大切さを強く感じたとお話しされており、何事も普段からリスク管理することが大事なのだとも改めて感じました。現在は、交代交代で出勤するようなフレキシブルな勤務体制を組んでいるとのことでした。(続く)

第1期研修生の社長と、



第45期生の高校生が初面談

★ 吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、町田市役所のインターンシップ受け入れや、中学生の職場体験に先行実施

★ 大学生・院生を対象に、議員活動に同行することを通じて社会勉強を支援しています。

今回の議会報告も、いわゆる政務活動費を一切使わずに、自主的に発行しているものです。